

平成 22 年度 普及に移す農業技術（第 2 回）

[分類] 普及技術

[成果名] ブロッコリーベと病防除にレーバスフロアブルが有効である

[要約] ブロッコリーベと病防除にレーバスフロアブルの 2,000 倍液を散布する。

[担当] 野菜花き試験場佐久支場

[部会] 病虫部会

1 背景・ねらい

ブロッコリーベと病は近年生産現場で顕在化する傾向がみられ、多発すると出荷部位である花蕾下の花梗部に発病するため問題となる。本県における本病に関する知見は少なく、普及に移されている防除薬剤は現時点でない。そこで、本病を防除するため効果の高い薬剤を選定するとともに、ブロッコリーに対する薬害の有無を検討する。単年度の試験成績であるが、緊急性が高く、2箇所において試験を実施し、効果および薬害について確認したので、今回普及技術とした。

2 成果の内容・特徴

(1) ブロッコリーベと病の防除に、レーバスフロアブルの 2,000 倍液を散布する。

農薬登録内容

レーバスフロアブル

[一般名および成分含有量] マンジプロパミド 23.3%

[毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] A類

[対象作物に対する適用登録状況（平成 23 年 1 月 4 日現在 JPP-NET 確認）]

作物名	適用病害名	希釈倍率	散布液量	使用時期	使用回数	使用方法	マンジプロパミドを含む農薬の総使用回数
ブロッコリー	べと病	2,000	100～300 L / 10a	収穫 14 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内

3 利用上の留意点

- (1) 本剤は、新しい作用を有する新規の殺菌成分を含んでいるが、耐性菌の出現を防ぐため、連用を避け、作用機作の異なる薬剤とのローテーション散布を心がける。
- (2) 本病は育苗期においても多発し、伝染源を本圃へ持ち込むおそれがある。発病に好適な多湿条件が続かないように育苗施設内の換気およびかん水に注意する。
- (3) 殺菌剤の散布は、生育期前半から予防的に実施する。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

レーバスフロアブルのブロッコリーベと病に対する防除効果及びブロッコリーに対する薬害について、平成 22 年に野菜花き試験場佐久支場場内圃場および小諸市農家現地圃場で試験した。

佐久支場では、中発生条件下の試験となった。レーバスフロアブルの 2,000 倍液は高い防除効果が認められた（表 1）。薬害は認められなかった。

表1 ブロッコリーべと病に対するレーバスフロアブルの防除効果 - 1 (平成22年、野菜花き試験場佐久支場)

供試薬剤	希釈倍数	調査株数	発病株率(%)	発病度	防除価	薬害
レーバスフロアブル	2,000	40.0	5.0	1.7	90.1	なし
無処理	-	40.0	47.5	17.2		

値は3反復の平均値

試験場所：小諸市山浦 佐久支場内圃場 発生状況：中発生 品種：「SK3-084」
 定植：8月25日 栽植距離：畦幅45cm、株間50cm 区制・面積：1区16.2m² 72株/区 3連制
 処理方法：9月21日(出蕾前、育苗中に多発生したが処理時は発生無し)10月7日の2回、所定量の薬液(まくぴかの10,000倍加用)を背負式動力噴霧器を用いて10aあたり300L散布した。
 調査方法：10月16日(出蕾期)に、各区40株について発病の有無および発病程度を調査した。
 発病指数 0：無発病 1：病斑面積が葉面積の1~10%未満
 2：病斑面積が葉面積の10~30%未満 3：病斑面積が葉面積の30%以上
 発病度 = ((発病指数 × 株数) / (調査株数 × 3)) × 100
 防除価 = 100 - ((処理区発病度 / 無処理区発病度) × 100)

小諸市の農家現地圃場では、少発生条件下の試験となった。レーバスフロアブルの2,000倍液は高い防除効果が認められた(表2)。薬害は認められなかった。

表2 ブロッコリーべと病に対するレーバスフロアブルの防除効果 - 2 (平成22年、野菜花き試験場佐久支場)

供試薬剤	希釈倍数	調査株数	発病株率(%)	調査葉数	発病葉率(%)	32株の病斑数	防除価	薬害
レーバスフロアブル	2,000	32.0	5.0	160.0	1.0	1.7	90.9	なし
無処理	-	32.0	27.1	160.0	7.1	18.7		

値は3反復の平均値

試験場所：小諸市耳取 農家現地圃場 発生状況：少発生 品種：「SK3-084」
 定植：9月22日 栽植距離：畦幅50cm、株間35cm 区制・面積：1区10.5m² 60株/区 3連制
 処理方法：10月22日(生育期、育苗時に多発生したが処理時は少発生)および29日の2回、所定量の薬液(まくぴかの10,000倍加用)を背負式動力噴霧器を用いて10aあたり300L散布した。
 調査方法：11月5日(生育期)に、各区32株について、各株上位展開葉5葉における発病の有無および病斑数を調査した。
 防除価 = 100 - ((処理区病斑数 / 無処理区病斑数) × 100)

6 特記事項

[公開]制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

東信地域の野菜等に関する素材開発研究、平成20~24年度(2008~2012年度)、県単素材開発